

平成27年度 渋川学区まちづくり協議会

『市長とまちづくりトーク』

と き 平成27年7月30日(木) 午後7時30分～9時【予定】

ところ 草津市立渋川公民館（草津市渋川市民センター） 大会議室

テーマ ① “伊佐々川の抜本的な改修事業と治水対策について”

渋川学区を東西に流れる伊佐々川は、流量容積や河床浚渫が十分でなかったり、市街地を屈折して流れていたり、河川周辺の地盤面（GL）が低かったりすることで、大量降雨時に2か所のマンポ（郵便局マンポ、高架下マンポ）が冠水したり、童子川をはじめとする流入河川への逆流によってオーバーフローしたりするなど、近隣住民の生命と財産を脅かす積年の課題となっている。このことは『渋川学区 洪水・内水ハザードマップ』で伊砂砂神社周辺エリアが「童子川、伊佐々川の水位が上がると浸水する恐れが高い」、「水に浸かりやすい場所」と記されており、その危険性の高さは行政においても十分承知いただいているところである。

これらを踏まえ、伊佐々川の抜本的な改修事業と治水対策について、行政（国・県・市）は何をすべきか、また地域住民は何ができるかについて、忌憚のない意見交換を行いたい。

② “自転車交通の安全対策について”

昨今、自転車運転のマナー違反による交通トラブルが多発しており、これを受けて6月1日から道路交通法が改正され、悪質自転車運転の14項目の危険行為に罰則が強化されたところである。

渋川学区においても、高架下マンポは「自転車は押してください」と注意看板が掲出されているものの、ほとんどの自転車運転者が乗ったまま猛スピードで通過するといった現状で、高架下マンポ内では大変危険な状況を日々目の当たりにする。

また、草津駅西口・駅西ロード交差点附近は、道路が狭隘で歩道もなく、さらにエイ・スクエアと草津駅への客導線になっているため、自動車、バイク、自転車、歩行者が混在して通過する大変危険なエリアとなっている。

さらに、当該道路東側には学習塾が多くあり、夜間、塾生徒を迎えに来た自動車が路上駐車することで円滑な自転車交通に支障を来し、夜半ということも相まってなお一層危険度が増している。

これらを踏まえ、渋川学区における自転車交通の安全対策について、行政（市・警察等）は何をすべきか、また地域住民は何ができるかについて、忌憚のない意見交換を行いたい。